

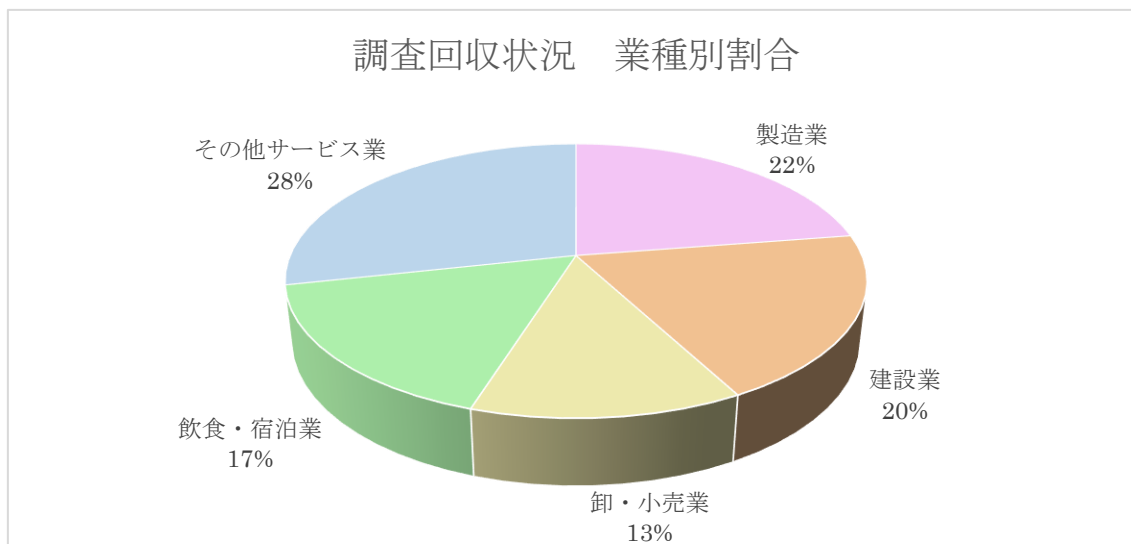
千歳市景気動向調査結果

調査期間：2023年1月～3月の実績と2023年4月～6月の見通しについて調査

調査方法：調査票を送付し、FAXまたはWEBにて回収

調査企業：千歳商工会議所会員（特別会員を除く）1,200社に依頼

回収状況：102社（8.5%）



DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは

増加・上昇・好転の企業割合から減少・降下・悪化の企業割合を差し引いた値のことです。

この数字がプラスかマイナスか、また、その大きさにより景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

景気が「良い」の中には、「良いけど悪くなりつつある」などの考えも含まれるため、**業況判断DIは、景気の方角性を表すもの**です。

数値が上昇していれば、良い景況感（景気が良いと感じる企業の割合が増えたこと）を意味します。

本調査では前期（2022年10～12月）と比較した今期（2023年1～3月）の実績及び、今期（2023年1～3月）と比較した来期（2023年4～6月）の予測を掲載しています。

《 全体の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲9.0	→	▲12.7	↑	▲5.9
売上	4.2	↓	▲17.6	↑	2.0
採算	▲30.6	→	▲27.5	↑	▲21.6
原材料	▲84.0	↑	▲74.5	→	▲75.5
資金繰り	▲9.0	→	▲4.9	→	▲7.8
労働時間	0.7	→	1.0	→	5.9
雇用状況	28.5	→	26.5	→	29.4

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

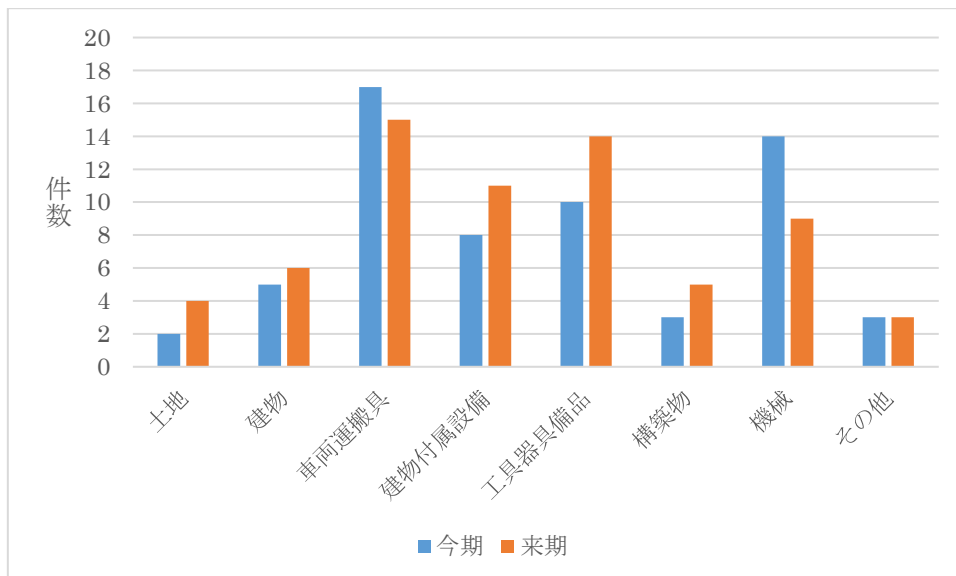
【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は43.1%

今期(1～3月)設備投資をした企業は43.1%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は44.1%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 製造業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲18.2	↓	▲26.1	↑	0.0
売上	▲22.7	↓	▲34.8	↑	17.4
採算	▲45.5	↑	▲30.4	↑	▲13.0
原材料	▲95.5	→	▲91.3	↑	▲78.3
資金繰り	13.6	↓	4.3	→	0.0
労働時間	▲9.1	→	▲4.3	↑	8.7
雇用状況	45.5	↓	39.1	→	43.5

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

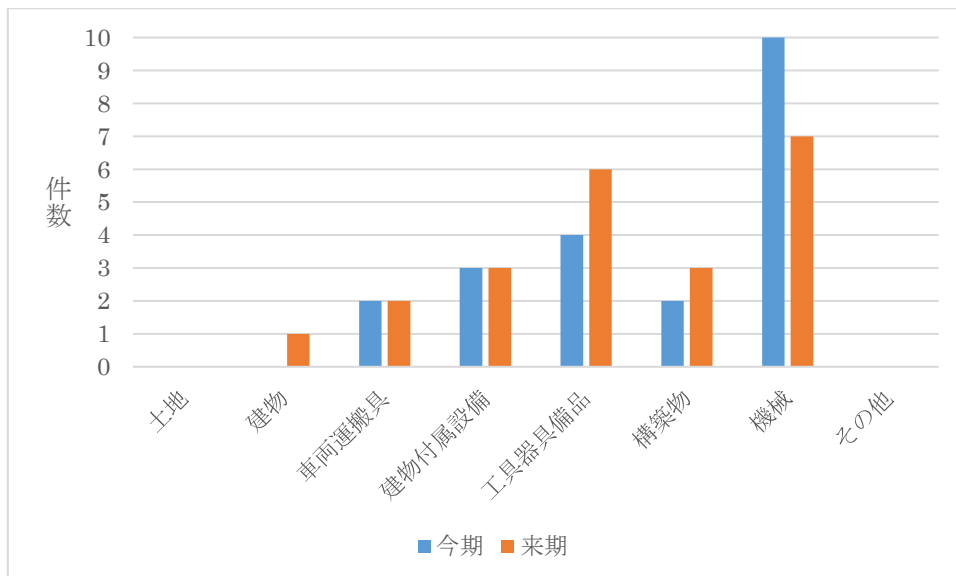
【設備投資調査】

前期（10～12月）設備投資をした企業は72.7%

今期（1～3月）設備投資をした企業は52.2%

来期（4～6月）設備投資を計画している企業は52.2%

設備投資をした（する）企業のうち投資内容は以下の通り。



《 建設業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲21.7	→	▲25.0	↑	▲15.0
売上	4.3	↓	▲30.0	→	▲30.0
採算	▲39.1	→	▲35.0	→	▲35.0
原材料	▲91.3	↑	▲80.0	↑	▲70.0
資金繰り	▲4.3	↓	▲10.0	→	▲10.0
労働時間	▲4.3	↓	▲15.0	↑	▲10.0
雇用状況	34.8	↑	40.0	↑	45.0

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

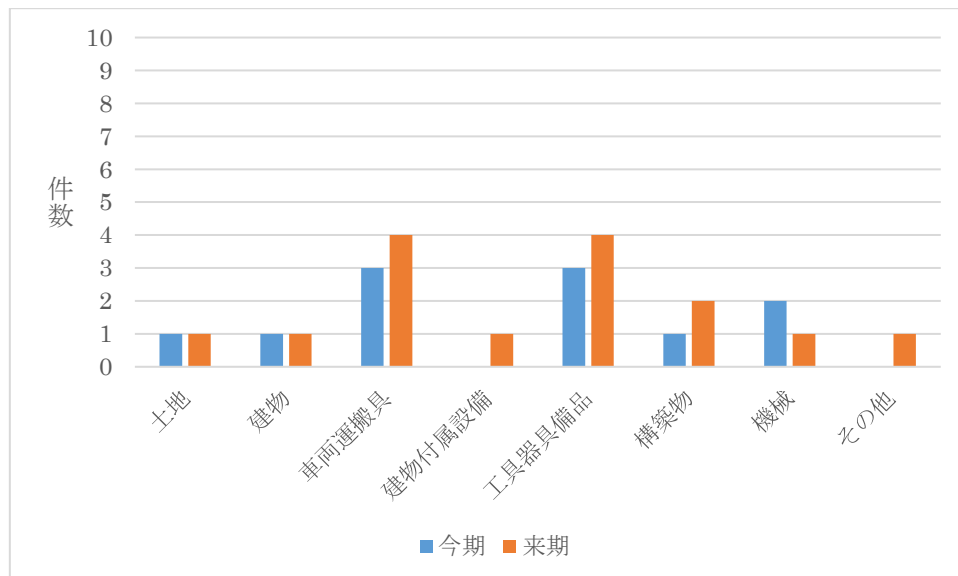
【設備投資調査】

前期（10～12月）設備投資をした企業は39.1%

今期（1～3月）設備投資をした企業は40.0%

来期（4～6月）設備投資を計画している企業は45.0%

設備投資をした（する）企業のうち投資内容は以下の通り。



《 卸・小売業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲4.3	↓	▲38.5	→	▲38.5
売上	21.7	↓	▲76.9	↑	▲38.5
採算	▲30.4	↓	▲61.5	↑	▲53.8
原材料	▲87.0	↑	▲76.9	↓	▲92.3
資金繰り	▲17.4	→	▲15.4	↓	▲30.8
労働時間	13.0	↑	23.1	↓	15.4
雇用状況	17.4	↓	7.7	→	7.7

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

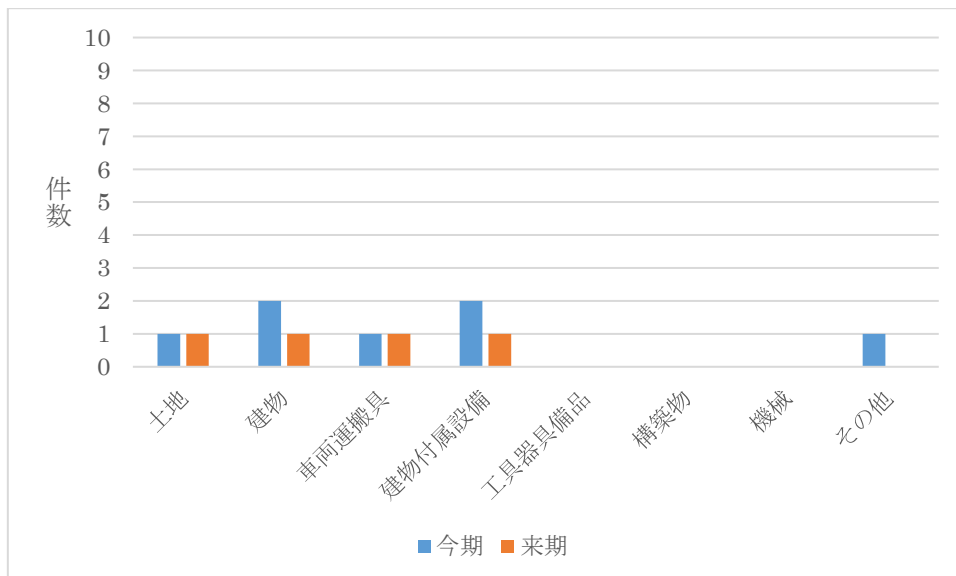
【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は34.8%

今期(1～3月)設備投資をした企業は46.2%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は30.8%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 飲食・宿泊業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲6.9	↑	11.8	→	11.8
売上	▲3.4	↑	23.5	↑	35.3
採算	▲27.6	→	▲23.5	↑	▲11.8
原材料	▲93.1	↓	▲100.0	→	▲100.0
資金繰り	▲10.3	→	▲5.9	↑	0.0
労働時間	▲6.9	↑	11.8	↑	17.6
雇用状況	10.3	↑	29.4	→	29.4

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

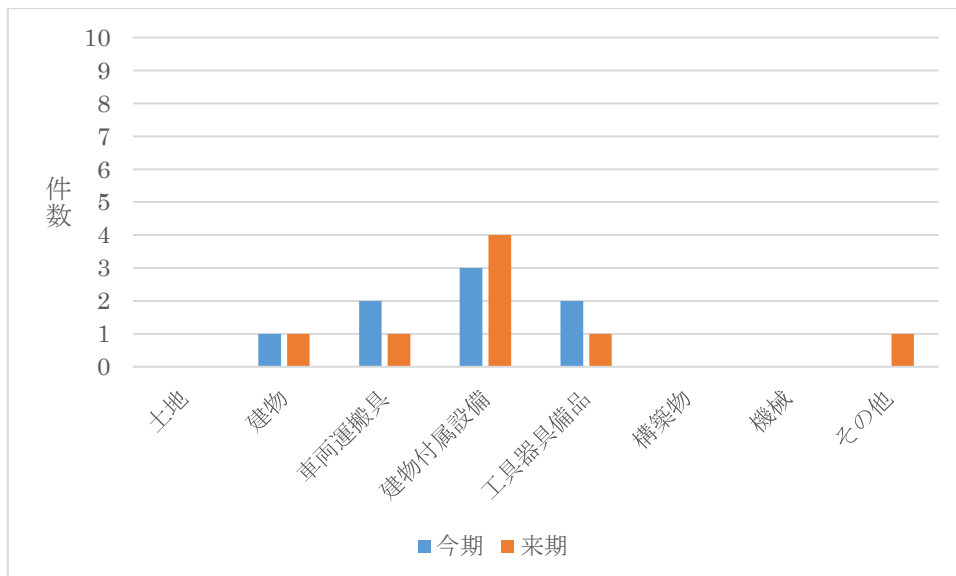
【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は48.3%

今期(1～3月)設備投資をした企業は41.2%

来期(4～6月)設備投資を計画している企業は47.1%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 その他サービス業の景気動向 》

運送・生活関連サービス・観光関連サービス・理美容・不動産・その他が含まれます

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	▲2.1	↑	3.4	→	0.0
売上	12.8	↓	6.9	→	10.3
採算	▲21.3	↑	▲6.9	→	▲10.3
原材料	▲68.1	↑	▲41.4	↓	▲55.2
資金繰り	▲17.0	↑	▲3.4	→	▲6.9
労働時間	6.4	↓	0.0	→	3.4
雇用状況	34.0	↓	13.8	→	17.2

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

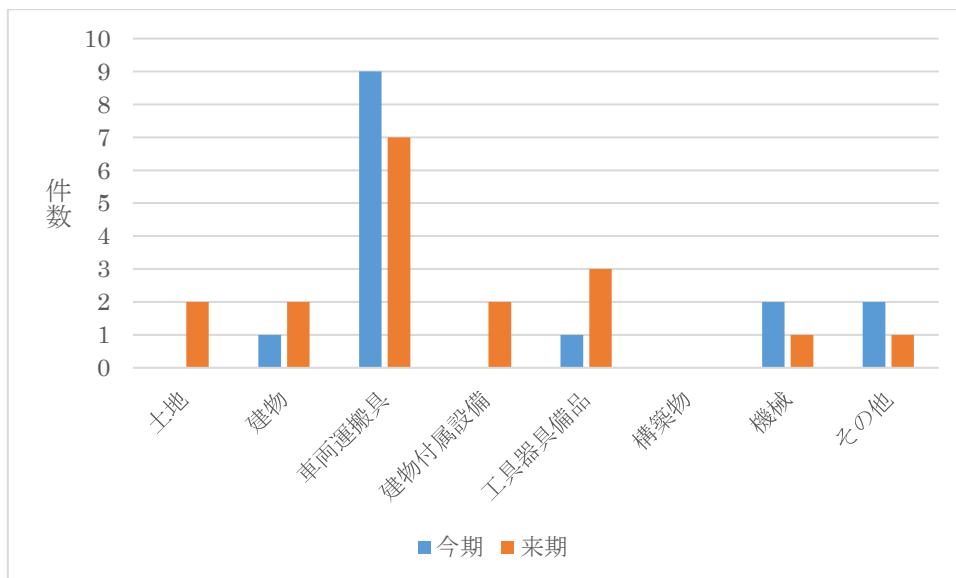
【設備投資調査】

前期(10～12月)設備投資をした企業は31.9%

今期(1～3月)設備投資をした企業は37.9%

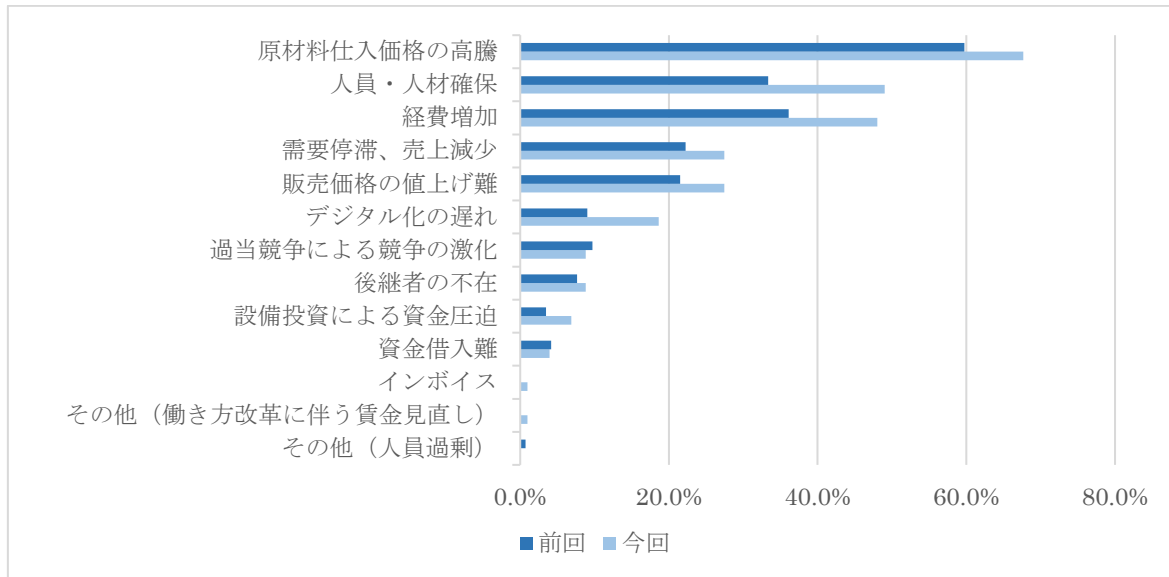
来期(4～6月)設備投資を計画している企業は41.4%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 全体の経営上の問題点 》

今回の調査でも、経営上直面している問題点が多かったのは、『原材料仕入価格の高騰（67.6%）』でした。次に『人員・人材確保（49.0%）』が多い結果となりました。

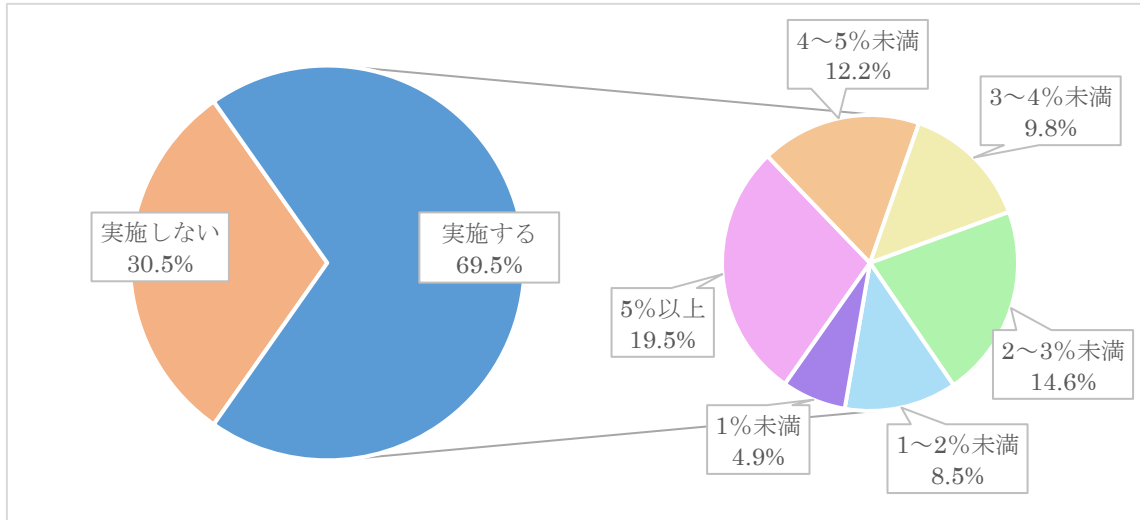


《 業種別の経営上の問題点 》

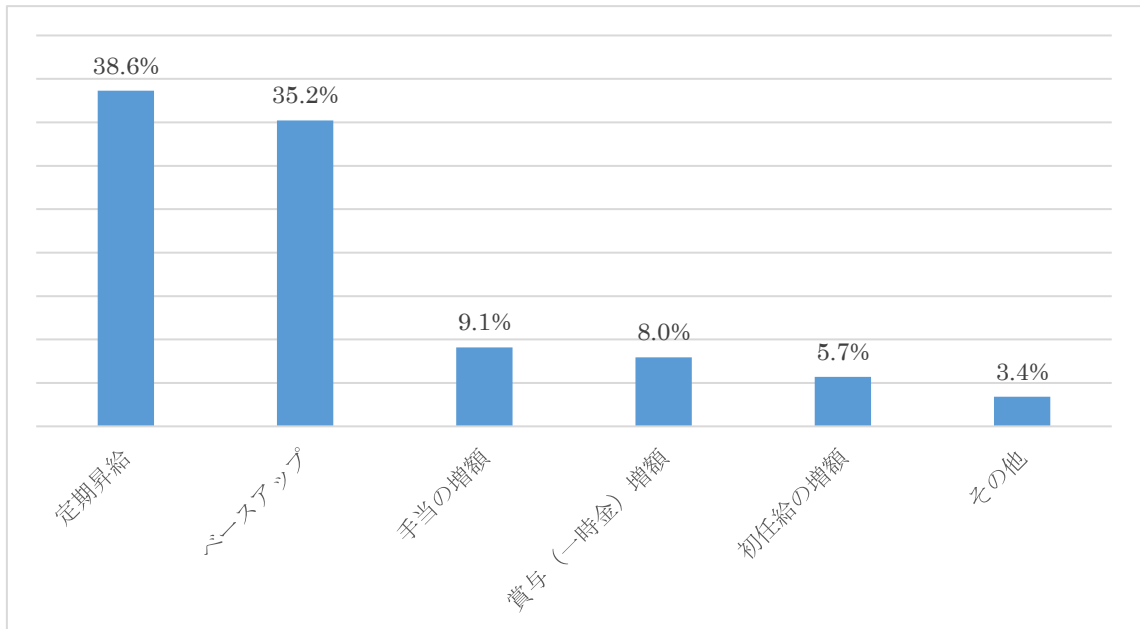
	製造業	建設業	卸・小売業	飲食・宿泊業	サービス業
1位	原材料仕入価格の高騰	原材料仕入価格の高騰	原材料仕入価格の高騰	原材料仕入価格の高騰	経費増加
2位	人員・人材確保	人員・人材確保	需要停滞 売上減少	経費増加	人員・人材確保
3位	経費増加	経費増加	経費増加	販売価格の値上げ難	原材料仕入価格の高騰

《 令和5年度の賃上げについて 》

今回の結果から、従業員を雇用する企業のうち、令和5年度は賃上げを実施すると回答した企業は、69.5%でした。



賃上げ内容で最も多かったのは「定期昇給」が38.6%で、その次に「ベースアップ」35.2%となりました。



《 観光関連の景況 》

観光に直接的に関わる業種及び企業を抜粋し調査しました。

対象事業者

市内の宿泊業、市内の観光関連業、市内の運送業、清水町・幸町周辺の飲食業、
新千歳空港及び周辺の観光関連事業者、支笏湖・モーラップ地区の事業者

景気動向

主要DI	前期実績 (10～12月)		今期実績 (1～3月)		来期予測 (4～6月)
業況	0.0	↑	20.8	→	16.7
売上	18.2	↑	33.3	↑	45.8
採算	▲15.2	↑	▲4.2	→	0.0
原材料	▲90.9	↑	▲83.3	↓	▲95.8
資金繰り	▲12.1	→	▲8.3	↑	0.0
労働時間	6.1	↑	16.7	→	16.7
雇用状況	▲30.3	→	▲33.3	→	▲33.3

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

《 企業の声 》

今般、鳥インフルエンザが全国各地の養鶏場などで発生しており、千歳市内の養鶏場でも3例の発生が確認され、120万羽を超える採卵鶏が殺処分されています。

外食産業や食品製造業等の食品を扱う企業では、メニューの多くに使用される鶏卵が品薄となり、生産制御をせざるを得なく、資金繰り難につながっているとの回答も寄せられました。

また、コロナが収束しつつあり、売上が増加傾向にある企業も多くみられますが、エネルギー価格・物価高騰による値上げに歯止めがかからず、コスト増加の問題や、価格転嫁や賃上げが追い付かないという声が数多く寄せられました。エネルギー価格・物価高騰に対する公的支援を必要とする声もありました。

賃上げは、賃金水準を一律に引き上げるベースアップと、勤続年数が上がるごとに増える定期昇給からなります。政府は定期昇給を1.8%とみており、この1.8%に物価上昇見通しの2.6%を上乘せした4%以上の賃上げ率を求めています。

令和5年度に賃上げを行うとした企業のうち、半数近い企業は4%以上の賃上げを実施すると回答しました。

しかし、賃上げを実施しない企業は30.5%あり、賃上げをできない理由として、物価高騰による影響のほか、働き方改革による有給休暇取得の推進、傷病時の欠員があげられています。建設業からは、中小企業が物価高騰、賃上げ対策ができるよう、公共工事の値上げ等の対策をしてほしいとの意見もありました。

経営する上で直面している問題点については、前回の調査に引き続き「原材料仕入れ価格の高騰」と答えた企業は67.6%で最も多く、次に、49.0%と半数近い企業が「人員・人材確保」と答えました。

働き方改革による有給休暇取得の推進や、人材確保、特に建設業は、技術者不足や高離職率を問題としている企業が多くみられました。

厚生労働省が発表した令和5年3月の有効求人倍率は前月と比較すると全国的に下がっており、全国は1.22倍、全道は1.05倍でした。千歳市は0.98倍で1倍を下回っています。

本調査にご協力いただきました企業の皆様、ありがとうございました。

次回調査は令和5年7月頃です。引き続きご協力の程よろしく願いいたします。